

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1770101598		
法人名	株式会社 北陸福祉医療開発		
事業所名	グループホーム レインボー2		
所在地	石川県金沢市入江2丁目210番地		
自己評価作成日	令和6年2月7日	評価結果市町村受理日	令和6年4月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.jp/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	(有)エイワイエイ研究所
所在地	金沢市無量寺5丁目45番地2 サンライズⅢ106号
訪問調査日	令和6年2月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

各ユニットの共有スペースを修繕し、気持ちも新たに、入居者様、職員共に和気あいあいと家庭的な雰囲気、出来ることをしながらお互いに協力し生活している。
今年度も、重度の方が多く、食事形態もその方に合わせ、刻み食、ミキサー食、ゼリー食などの対応も行い、側臥位での食事介助なども対応してきた。
今年度、ご家族様の意向で、3名の看取りを主治医や訪問看護と協力し、支援してきた。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~59で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
60	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	67	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
61	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,42)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	68	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
62	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:42)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
63	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:40,41)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
64	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:53)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	71	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
65	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	72	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
66	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	出入口の目につきやすいところに理念を掲げ、共に生活しながら、役割や生きがいを見つけることが出来るよう支援し、取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ後、直接の交流はしていないが、くすみ保育園の園児より、年賀状が届くなどの交流がある。 お隣の方から柿のおすそ分けやご近所の方から家にお花が咲いたとのことで持ってきていただくなどの交流もある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2か月に一度、レインボーだよりを作成し、その中で認知症の方に対してどのような支援を行っているかなどを載せ、運営推進会議で配布したり、入口に置き、自由に持ち帰りできるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナが第五類となり、対面で運営推進会議を行い、入居者状況や取り組みなどをお伝えしたり、金沢市の方や民生委員、入居者ご家族様の意見など交換し、サービス向上に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の中で事業所の空き状況や実情をお話したり、取り組みなどをお伝えしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は夜間のみとしている。 身体拘束のマニュアルを作成し、ユニット会議で拘束について話をしたり、玄関には身体拘束適正化のための指針があり、スタッフは目を通してしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルがある。 ユニット会議などで虐待について話し合ったりし、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	日常生活自立支援事業で、お金の管理をしていただいている入居者様や成年後見制度を利用している入居者様がいますが、学んだり、全ての職員が理解できているとは言えない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ホーム長が入居時にご本人やご家族に不安に思っていることがないかや、心配事などを尋ね、説明し理解・納得が得られるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居の際に苦情相談についての説明をしたり、玄関に苦情相談受付についてのポスターを掲示している。ご家族様が電話や来訪された際にご意見や要望などをお聞きしている。直接本部へ連絡されるご家族様もおられる。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議や日々の会話や報告の際に意見や提案があれば伝えている。代表者には管理者が本部会議などで伝えている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月に3日公休希望を出すことが出来る。 資格手当や夜勤手当、処遇改善加算などの手当の支給がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	直接外部への研修を受ける機会はないが、今年度は認知症介護基礎研修をeラーニングを利用し受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者の訪問や勉強会については行っていない。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の際はや日常の会話の中で、ご本人に困っていることや心配事、要望などをお聞きし、安心して生活できるよう関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の際や面会やお電話をいただいた際に、ご家族様に困っていることや不安なこと聞くようにし、信頼関係を築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入する際には、ご本人やご家族様が望んでいることは何かをお聞きし、どのような支援をしたらよいかをみんなで考え、対応するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフが入居者様と会話しながら、食器拭きや掃除、洗濯たたみなど一緒に行うことで、共に生活する者同士として信頼関係を築けるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様から電話や来訪された際に、近況報告や相談をしたりすることで、ご本人との関係を大切にしながら、関係性を築けるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナが第五類となり、コロナ前と同様に面会できるようになっており、ご家族、ご親戚、ご友人なども来訪されたり、携帯電話を持っている入居者様は直接電話したりされている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様が孤立しないよう、座席を考慮したり、入居者様同士が会話しやすいようスタッフが間に入り、入居者様同士が関わりを持てるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されても連絡があれば対応している。過去には退居された方のご親戚の方が入居されたこともある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の中から思いや希望をお聞きし把握に努めている。お話ができない方は表情や態度などを見てご本人の視点に立ち考えるように努めているが、全てできているとは言えない。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族様からどのように生活されてきたのかをお聞きし、その情報をスタッフ同士共有しながら把握に努め、ホームでどのように過ごしたいと思っておられるのかを考えるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの様子を記録に残したり、ご本人の意思を確認しながら現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランの作成や見直しは、スタッフ同士の日々の会話やユニット会議での話し合いの中で現状に合った介護計画の作成をするように努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアプランを実施した時の様子などを記録に残し、スタッフ同士申し送りやユニット会議で共有し、計画の見直しを行うようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様が病院の受診が難しいときなどスタッフが一緒に行ったり、どうしても行けない時は外部へ受診の付き添いの依頼をしたり、訪問歯科などの往診依頼をしたりするなどしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の床屋さんに来ていただいたり、週に一度ヤクルトさんが訪問販売に来ていただいたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にご家族様やご本人の状況やご意見を聞き、かかりつけ医を決め、適切な医療が受けられるように支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	様子がおかしいときは、かかりつけ医や看護師に報告し、指示を仰いでいる。普段も気になることなどあれば相談し、適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはホームでの様子や生活状況などについて情報を提供したり、入院中もどのような様子なのかを聞いたり、退院時期などについてもソーシャルワーカーや看護師へ連絡を取るなどし、病院関係者との関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	かかりつけ医やご家族様の状況をお伝えし、今後どのようにされたいか、かかりつけ医とご家族様、スタッフで話し合い、ホームでできることをお伝えしながら支援に努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全てのスタッフができているとは言えないが、急変や事故、気になることがあればホーム長に連絡し、指示を受け対応している。		
35	(13)	○緊急時等の対応 けが、転倒、窒息、意識不明、行方不明等の緊急事態に対応する体制が整備されている	全てのスタッフができているとは言えないが、ホーム長に連絡したり、かかりつけ医や看護師に連絡し指示を受けている。状況に応じ、他ユニットのスタッフに協力をお願いし対応してもらうこともある。		
36	(14)	○バックアップ機関の充実 協力医療機関や介護老人福祉施設等のバックアップ機関との間で、支援体制が確保されている	いつでもかかりつけ医に連絡できる支援体制は確保されている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(15)	○夜間及び深夜における勤務体制 夜間及び深夜における勤務体制が、緊急時に対応したものとなっている	夜間は各ユニット1名ずつの勤務体制となっており、緊急時はホーム長に連絡し、対応している。		
38	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	全てのスタッフが避難方法など身に着けているとは言えないが、ホームの側溝の水があふれそうな時は止水版を準備し対応したり、町内の方が様子を見に来られるなどの協力体制もある。		
39	(17)	○災害対策 災害時の利用者の安全確保のための体制が整備されている	災害時の食料や水を準備している。スプリンクラーや消火器、火災報知器などの設備があふ。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
40	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室に入る際はご本人に声掛けしてから入るように努めているが、時には声掛けせずに入ってしまうことがある。 入居者様の性格やスタッフとの関係性もあるが、外部の方が聞くと馴れ馴れしく聞こえるのではないかと気になることがある。		
41		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が思いや希望など言いやすいよう声掛けしたり心がけているが、入居者様全員にできているとは言えない。		
42		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や食事のペースなど、ご本人のペースに合わせ過ごしていただくように心がけているが、すべて希望に沿った支援ができていない。		
43		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	介助が必要な方は洋服を選べるよう声掛けしたり、爪切りや髭剃り、整髪も声掛けし介助している。洗面のできない方はホットタオルで顔を拭くなど支援している。		
44	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下膳できる方はキッチンのカウンターまで持ってきていただいたり、お盆拭きや食器拭きなどしていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご本人に合った食事形態(刻み食やミキサー食など)で召し上がっていただいている。水分は声かけし飲んでいただいたり、少ない方は水分チェック表をつけて飲んでいただくように心がけている。コーヒーやヤクルト、スポーツ飲料なども飲んでいただいている。		
46		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの声かけをし、出来ない方はスタッフが介助している。義歯の方は夜間は外していただき洗浄剤で消毒している。		
47	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて時間を見ながら声かけし、トイレにお誘いしている。出来る方には声かけし、ズボンの上げ下ろしなどしていただくようにしている。		
48		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ご自分で水分摂取されない方は介助にて多めに摂っていただくようにしたり、乳酸菌飲料や牛乳を飲んでいただいたりし、便秘の予防に努めている。必要に応じて下剤や座薬など使用することもある。		
49	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	全て希望に添えているとは言えないが、入りたいと希望された時は入っていただいたり、言えない方はこちらから意思を確認したり、体調を見ながら入浴していただくようにしている。		
50		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や様子を見ながらスタッフが声かけしたり、ご自分で居室やソファで休んでおられる。電気の明るさを調整したりし、安心して眠るよう支援している。		
51		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報をファイリングし確認できるようになっていたり、直接薬剤師さんに聞き、スタッフ同士で共有しているが、全て把握しているとは言えない。薬の変更があった場合は内服後、体調の変化がないかを確認し、気になることがあればかかりつけ医や看護師さんに報告している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割として、居間の掃除をされる方やお盆拭きや食器拭きなどされる方がおられる。楽しみ事としては、歌がお好きな方はお好きな方同士唄われたりされている。お酒やコーヒーがお好きな方もおられ気分転換できるよう支援している。		
53	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者全員が出来ているわけではないが、ご家族や知人の方とご自宅や買い物など、感染対策をし外出されている方がおられる。		
54		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人でお金を持っている方もいらっしゃるが、ほとんどの入居者はご本人やご家族と話し合い、ホームにておごづかいをお預かりし、必要な物を購入している。		
55		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が希望すれば電話をかけた、かかってきた場合はご本人に代わり、直接お話しして頂くよう支援している。 携帯電話を持っておられる方はご自分で自由にかけておられる。		
56	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	対面式キッチンのため、スタッフが食事の準備をしている様子やにおいなどが分かるようになっている。トイレの場所が分かるよう表示したり、季節に合った装飾に変えたりしている。テレビの音量を調整したり、まぶしい時にはカーテンを閉めるなどの調整もしている。		
57		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	のんびり新聞やテレビをみたり、仲の良い入居者様同士は席を近くにしたり、一人になりたい方は居室で過ごされるなど、思い思いに過ごせるようにしている。		
58	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたダンスや鏡台、ご家族の写真や風景写真を持ってこられたりされている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
59		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室に表札をかけたリ、トイレの場所が分かるように表示している。 今や居室には手すりがあり、歩行が不安定な方でもつかまり歩きやすいようにしている。		